

RoHS 分析法の原案策定「出直し」投票へ IEC 部会



RoHS 指令対象物質向けの分析試験法に関する国際規格を検討している国際電気標準会議(IEC)の作業部会(TC111/ワーキンググループ 3(WG3))はこのほど、同規格の原案を策定しました。

対象物質のうち、六価クロムと臭素系難燃剤2物質の分析が困難なことから、これら物質に関する試験法が本体部分から外され、付属書に盛り込まれました。同ワーキンググループでは昨年秋、各国投票で原案が否決された経緯があり、今回(12月14日締め切り予定)可決されれば、来年初めにも最終原案が作成され、来夏にも国際規格が発行される予定です。

原案では、鉛、水銀、カドミウムの3物質に関する試験法は前回の原案をほぼ踏襲される見通しです。一方臭素系難燃剤と六価クロムに関する分析試験法が本体部分から外される模様で、これは分析機関によって測定データにばらつきが生じるなど、「更なる知見集積が必要」と判断されたことが主な理由のようです。

前回の投票で否決された後も検討が続けられていましたが、同指令が既に施行されているだけに、時間的な余裕がなかったことも背景にあります。

当社では RoHS 指令規制物質6項目の分析を行っております。お気軽にお問い合わせください。

資料 2007年11月14日付 環境新聞

無機分析箇所 竹下尚長